

本坊西楽院跡

この広場の後方、森の中に、1605年頃に大山寺の本坊となった西楽院がありました。その壮大な建物は、主門だけでなく僧侶と侍のための別の門があり、幅は40m以上ありました。2世紀半ほどの間、広大な仏教教団と共に栄えましたが、政治上の事件のため、19世紀末には徐々に衰えていきました。

古くから日本の精神文化は仏教と神道が共存していました。しかし1868年の明治維新後、新政府は2つの宗教の分離を余儀なくされ、仏教を弱体化させ神道を促進する運動を展開しました。寺領は接収され、僧侶は神職への転向を強制されました。西楽院は破壊されませんでした。1875年9月30日の大山寺の寺号廃絶により、維持不能となりました。その後数十年間に渡り、かつて壮大であった院は徐々に崩壊しました。